



与儀 清 議員

◆災害時避難所施設建設断念

◆町内の案内板・看板
◆陸上競技場の
サッカー利用

問 災害時避難所施設整備事業断念について。この問題の始まりは、

平園地区の公民館建設だと私は理解している。できるだけ区民のことを考えて、区民の負担にならないように英知を絞ったのが今回の災害時避難所施設

整備事業だと思う。町として、あと500万円出せば完成し、3億円の資産が町民の手に入るはずであった。しかし、昨年12月定例会の補正予算が認められず災害時避難施設建設は断念となった。誠に残念である。町長の見解とこの問題に長年取り組んできた職員へのケアは。

町長 昨年12月議会で補正予算が一部否決され、結果として断念せざるを得ない。非常に残念至極である。職員に

おいては、これまで2年にわたり懸命にこの事業の推進のため、県や国一括交付金事業をめぐり、相当ご苦労いただいたが、結果として事業は断念ということ、精神的にかなりダメージもあると思う。今後、職員の様子を見ながら、必要に応じて産業界の活用を図って、職員の安全、衛生に努めてまいりたい。

問 宇津花波のローソン前の案内板が剥げ落ちて、案内板の体をな

していない。また、そういう箇所は他にないか。

総務部長 案内板については、早速現場を確認したところ、著しく盤面が剥離しており、張替による機能回復を図る予定である。そのほか、同様の状況はないかということについては、各課で設置または管理区域の調査を行い、不具合があるものについては順次修繕をしてまいりたい。

問 陸上競技場のサッカー利用の件

は、西原の小学校の3チーム、1年間で利用したのは坂田FCが4回のみということ、実にもったいないと思うが、あれだけお金をかけて見事な芝、決して観賞用ではないと思うのだが、これか西原の小学校が利用しやすくなるため、拡大、推進は考えているか。

生涯学習課長 小学生のみに利用制限をしているものではない。芝の養生期間、養生の工程で利用できないことも

あるが、利用可能な期間であれば借用は可能だと考えている。



改修された新案内板(津花波)



儀間 信子 議員

◆後5年を残す一括交付金、子育て環境整備事業を

◆認知症対策―年間約7人の行方不明者―

問 一括交付金もあと5年を残すわけだが、ハード事業の一方で、町民が直にメリットを感じられるソフト事業を望む声が寄せられている。子育て環境整備事業や福祉事業を望む声があるが、一括交付金を活用したソフ

ト交付金の事業例にはどのような事業があるか。中身を聞く。

総務部長 平成29年度の配分額は4億8,900万円。総事業数は27事業、ソフト事業の中で子育てに関する事業例として、認可外保育施設支援事業。これは、施設へ支援員を派遣し、事務従事者の負担を減らすことで、保育業務に専念できる環境をつくることにある。次に、放課後児童クラブ巡回指導、親子通園事業、乳幼児検診で発達の気

になる子を早期に発見し、発達相談などの子育て支援を行う事業である。

問 認知症の人々やその家族の相談支援を行う認知症地域支援とは。

福祉部長 高齢化に伴い、認知症の方も増えていくことが予想される。認知症があってもできる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けるには、地域で認知症を支える仕組みづくりが必要となる。認知症地域支援員を配置し家族の相談支援を行う。病院や介護保険

事業所、関係機関につなぐ連携支援を行い、地域、学校やスーパーなどの事業所等に認知症に対する普及啓発の取り組みを行う事を予定している。

問 県の推計によると、2025年には、4人に1人が高齢者、それに伴って認知症も増えるといわれている。地域支援推進員は各地域に置かれるのか。

介護支援課長 認知症地域支援推進員の要件を満たしたものを1名以上配置するというのが、厚生労働省の要件だ。次年度1人を配置する予定。

問 家から出て、行方不明になるおそれがある。警察署との連携も必要では。

介護支援課長 おっしゃる通り、西原町でも年間約7人の方が行方不明になっている。今、浦添警察署と捜索に関して提携を結ぼうとしているところだ。初期対応がとても大切で、本人、家族の相談を受け、認知症の段階に



「町民がメリットを感じるソフト事業を」望む声!!



平良 正行 議員

◆街路樹
◆堆肥補助金
◆農業用廃プラスチック
ティック補助金

問 街路樹の目的は景観の向上や道路の保全、歩行者等に日陰を提供することであるといわれている。街路樹の立ち枯れが多く見られ景観上好ましい状況ではない。我謝安室線につ

土木課長 我謝安室線については、ホウオウボクが12本、トックリキワタが1本で立ち枯れした木はない。

問 現在残っているホウオウボクが丸坊主になっていて、今にも枯れそう感じる。木を剪定する場合は

気をつけてもらいたい。与那城小波津線には南小学校の裏門から小波津地域にかけてヤマモモが植栽されていたが、現在は4本だけ残っており、残りは枯れてしまっている。ヤマモモは街路樹として適しているが、ああいう所に植えるとなると手入れが必要だと思う。小波津から南小学校の通学路になっっているので、新たに植え替えることも考えておられるか。

土木課長 与那城小波津線についてはご指摘のとおり、当初ヤマモモを植えて、ほとんど残っていない状況で、植樹だけがそのままの状態である。植え替えについては予算との関係もあり、内部で検討して計画を立てていき

たい。
問 堆肥補助金について伺う。安全、安心な作物を栽培するには土づくりが大変重要であることから、堆肥の重要性を理解してもらい、堆肥に対する補助をしていただきたい。

建設部長 安全、安心な農作物を栽培するには土づくりが大変重要であり、堆肥の重要性についても十分理解をしている。今後の農業関係の各種事業、負担金、補助金のあり方などについて精査した上で、今後補助できるのか検討してまいりたい。

問 廃プラスチック処理に要する経費の三分の一を補助しているが、実績を伺いたい。

建設部長 農業用廃プラスチック補助金については、今のところ利用実績はない。

問 産業廃棄物を処理するのに1キログラムあたり80円かかるので躊躇しているという感じがする。中城

村では全額補助して、年2回、農協に集めて、役場が産業廃棄物処理場に運んでいると聞いている。中城村並みに補助金の検討をお願いしたい。



通学路に街路樹を!

よって、つなぐ病院、介護施設が違うので、有機的なネットワーク体制づくりをするのが目的であり、地域支援推進員の大きな役割となっている。